

2021年(令和3年)7月19日(月曜日)

風紋

「気の合つルームメイトと一緒にいきいきと働きながら暮らしませんか」今春、東京都江戸川区に1軒のシェアハウスが誕生した。物件名は「フローラ西一之江」。宣伝文句を読む限り、最近若者に定着したシェアハウス……かと思いつや、入居者の顔ぶれがちょっとと独特だ。現在の住人3人は60~70代の女性。希望者に求人を紹介する仕組みも備え、全国初の「仕事付き高齢者住宅」をうた

シニアの住まい多様化



フローラ西一之江のリビングで談笑する入居者（東京都江戸川区）

い」。昼間は別々のパート先へ。夕食後は居間でおしゃべりに花を咲かせ、休日はお互い自由に過ごす。「つかず離れず」の距離感が心地よいそ�だ。

一人暮らしの高齢者にとって住居の問題は切実だ。健康に問題がなくても、年齢を理由に賃貸契約を断られることが少なくない。不測のけがや病気への不安もある。一般社団法人、生涯現役ハウスの持田昇一代表

台所、風呂などは共用だ。だのか。71歳の女性は「一理事がフローラを開設したのは「元気な高齢者に新しい暮らしを提供してもらつ。延べ43組がマッチングした。利用した高齢者が「生活の張り合いがない」という感想が寄せている」という。74歳の女性は「この部屋に充て、リビングやなぜシェアハウスを選んだら孤独死の心配もない」という。2015年時点では65歳以上の単身世帯は女性が約40万人、男性が約19万人に上る。高齢化や核家族化によりその数は今後も増え、40年には女性約54万人、男性約35万人に達すると推計されている。女性は4人に1人、男性も5人に1人が独居生活を営むことになる。

ターゲット研究の藤原佳典研究部長は「他の人の交流は心身の機能維持につながる。様々なタイプの住まい方ができた方がいい」と話す。将来的に住人の介護や生活支援が必要になると見据え、「地域の介護福祉サービスなどと連携する仕組みも整備すべきだろう」と指摘する。

フローラ西一之江は近く、残る1室も埋まる見通し。持田代表理事は年度中には同区内で3カ所のシェアハウスを開く計画という。（石川淳一）